

「第10回 土木設計関係技術発表会」 発表概要書

発表内容	事例名（業務名）	令和3年度旭川中上流陸域環境調査他業務
	業務発注者名	中国地方整備局 岡山河川事務所
発表者	所属協会名	岡山県測量設計業協会
	所属会社	(株) ウエスコ
	発表者名	松下 太郎

発表事例の概要 <図表も含め1000字(40字×25行)程度以内>

①業務の内容、技術的特徴

【内容】旭川中上流ダム再生事業において、旭川・湯原ダム周辺及び旭川本川沿いの陸域における環境調査を行い、環境影響評価を円滑に推進することを目的とした業務である。

【技術的特徴】

①事業範囲が広域なため、標高や地形、植生など異なる環境が存在し、調査をするにあたって、調査精度の管理が必要となる。

⇒気候・地形等が多様な広域調査に対応した調査計画の立案

- ・旭川流域を9つの区域に類型区分し、各類型区分毎に代表区間を設定し調査範囲を設定した。
- ・流域で特徴がある種や場所は、補足調査（オオサンショウウオの環境DNA、カジカガエル鳴声調査、オシドリ分布調査、急傾斜地の着生植物調査）を実施した。

②アセスの調査で多項目であり、今後の予測評価に使用するデータのため、調査精度の確保やデータ不足がないことが重要となる。

⇒ダム再生事業（事業特性）の影響要因に着目した現況把握

- ・工事等で問題になりやすい猛禽類の定期観察を行い、営巣木特定に伴う行動圏解析を実施した。
- ・事業の水位変動が想定される範囲のヤナギ林や抽水植物群落を航空写真より抽出し調査した。
- ・予測評価を見据えたデータ整理（重要種カルテの作成）を行った。

③広域調査かつアセスなので、ステークホルダーが非常に多い。

⇒同時進行の関連業務との連携、関係機関等との合意形成

- ・関係機関や地元等との調整を調査適期までに実施した。
- ・環境関連業務内で合同会議を実施し、予測評価の円滑化を図った。
- ・ランクの高い重要種は、有識者、発注者、受注者の合同現地踏査により、対応を明確化した。

②高評価の要因

・大規模な調査業務であるが、安全管理や事前周知・情報統制で、大きな地元トラブル等がなく、調査適期に確実に環境調査を実施できた。

- ・全体工程をふまえ、事業影響や重要度の高い重要種への迅速かつ確実な対応を実施した。
- ・複数関係者と定期的な合同会議により、アセスに必要な調査精度を確保した。

③工夫した点、苦労した点

- ・密なコミュニケーションによる情報共有と工程管理、地元企業ならではの迅速な対応
- ・コロナ対応、トラブル対応、広範囲な調査のため調査員確保や日程調整

*概要書記載上の留意事項

- ①業務の内容、技術的特徴等を簡潔に記載
- ②表彰に至る高評価の要因等を簡潔に記載
- ③業務遂行上、苦労した点や工夫した点等を簡潔に記載

*発表資料作成上の留意事項

- ①パワーポイントにて25枚程度以内に簡潔にまとめる
- ②上記の概要書記載上の留意事項①～③に留意して作成